

外的営力がつくる小地形

内的営力によって起伏の大きくなった地形は、外的営力によって平坦化する。

河川などの堆積作用により形成される平野を、侵食平野に対して堆積平野と呼ぶ。

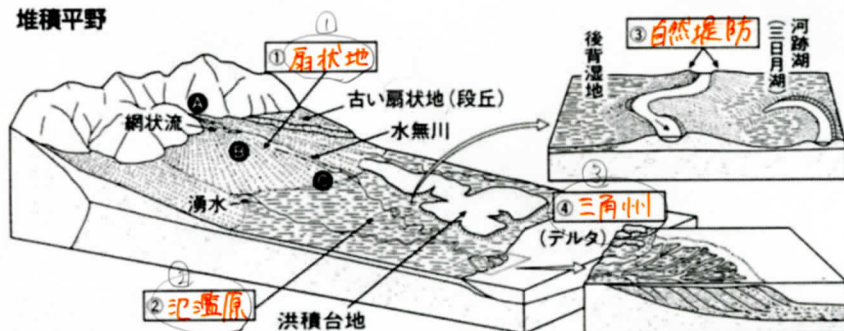
※堆積平野上の地形

- ・[① 沖積平野]: 完新世(沖積世)に形成された平野。
- ・[② 台地(洪積台地)]: 更新世(洪積世)に形成された堆積平野が、隆起してできた台地。日本では約12万年以降にできたものを指す場合が多い。

[① 沖積平野]で見られる地形

河川は急流となる山地では侵食による[V字谷]を形成する。運搬された土砂は河川沿いに堆積すると[谷底(こくてい/たにぞこ)平野]をつくる。

堆積平野



[① 扇状地]: 谷の出口に粒の粗い砂礫が堆積してできる、谷口を頂点とする半円錐状の堆積地形。以下の三部に分けられる。

[A] 扇頂 [B] 扇央 [C] 扇端 → No.30 で解説

[② 氾濫原]: 洪水の際、流路一帯が浸水することにより形成された地形。以下の微地形(びちけい)を含む。

[③ 自然堤防]: 河道付近に砂が堆積してできる微高地。

[⑤ 後背湿地]: [③ 自然堤防]の背後にできる水はけの悪い土地。[⑥ 蛇行・三日月湖(河跡湖)]が見られることもある。

[④ 三角州(デルタ)]: 河口付近で河川の流力が減速し、運搬力が失われるため砂や泥が堆積してできる地形。肥沃。以下の三種の形状。



ア: [⑦ 扇状三角州]: ex. ナイル川, 太田川など

イ: [⑧ 鳥趾状三角州]: ex. [⑩ ミシシッピ川]など

ウ: [⑨ 尖状三角州]: ex. テヴェレ川など

- ・ 外的営力とは?

地表の低い部分を削り取る風化・侵食作用と削り取った土砂を低いところ運んで堆積させる運搬・堆積作用を引き起こす力。

- ・ 形成された地質年代の違い(標高や地盤の固結度の違い) → 地震

- ・ 地質年代とは、地球の歴史を地層に着目した時代区分のこと。完新世は何年前からいつまで? (地 p.148)

→ 最終氷期が終わる約1万年前から現在まで。

約1万2千年前の現在

- ・ 左の図「堆積平野」中の番号と記号は、以下の空欄と一致する。

- ・ 谷口とは? (教 p.181)

→ 山地から平野に河川が流出する地点。

山地と平野の境界のこと。

- ・ 坂戸西高校は、沖積平野の氾濫原という地形の中でも低湿な地形の上に立地する。(地理院地図>土地条件図)

- ・ デルタ=Δ (三角形)

- ・ 三角州は、沿岸流の強さ、運搬される土砂の量などの関係で形が決まる。土砂量が[多]く、海底の勾配が緩いとイの形となる。

* このページは、オンライン「生」授業で学習したことや、自分自身で学習した内容など、自由に利用してください。(このページの学習内容を評価対象とします。)

地形...地面のびくぼく (坂面は平地)

- (内的...規模の大きな地形 (更新世...気温低 しかし常に寒いわけではない、今よりかなり暖かかった。
 外的...内的に比べて規模が小さい (完新世...気温高)

標高→台地 > 沖積

地盤の固結度→台地 > 沖積

台地の方が地震のとき有利である。

水害も有利

< 三角州について >

- ① 鳥趾状三角州 → 河川が海に流れ入る際に、海底に自然堤防を形成して、それが海面上に隆起すると、このような形になると言われている。
海面下に自然堤防が形成されるほど、緩やかな流れであることが特徴。
- ② 円弧状三角州 → 鳥趾状三角州をさらに堆積を増したもので、形が円弧状になっている。
- ③ カスプ状三角州 → 河川が比較的急流で、土砂の運搬量が大きい河川の河口付近には、海がとんがって三角州が発達する。これをカスプ状三角州という。

※三角州の災害

- ・水害を受けやすい
- ・地下水の過剰な汲み上げによる地盤沈下
- ・地震の際の液状化現象

三角州は海面とほぼ同じ高さのため。

とは、海岸付近の低地や田畑や沿岸を埋め立てたところなど、地下水も多く含んだ「地層が」、地震などの大きな衝撃を受けることで、地盤全体がまるで液体のようにぐちゃぐちゃになる現象で、建物が損壊したり、倒壊したりする被害が発生する。

3.11のときの東京ディズニーランドとその周辺

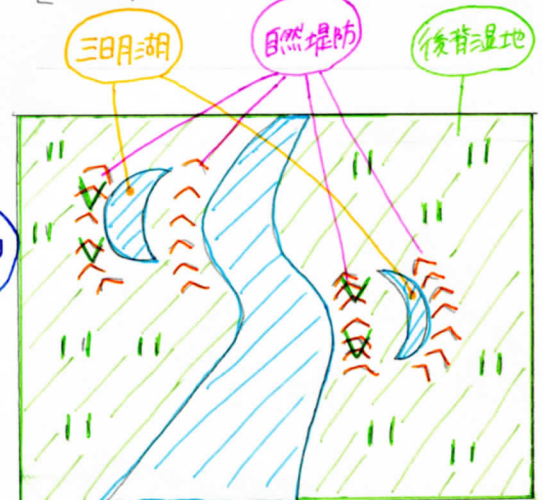
画像も検索にしよう。

< 氾濫原について >

氾濫原は三日月湖、自然堤防、後背湿地から構成される。

- ・三日月湖 → もともと蛇行していた河川の流路が変わり、湖が取り残されたもの。
- ・自然堤防 → 河川によって自然に作り出される堤防(微高地)のこと。
河川が氾濫すると土砂が河川の外側にあふれ、洪水後は水が引いた後もあふれた土砂は河川の両側に堆積する。これをくり返すうちに河川の両側には数十cm〜数mの微高地が形成される。
- ・後背湿地 → 自然堤防と三日月湖以外の土地(※図をみると)
標高が低いため、水はけが悪い土地が広がる。

[氾濫原の模式図]



Q もし、氾濫原の中に家を作るならどこに建てますか？

A. 自然堤防上

理由は、洪水の際にも水害を避けられるから！

大事!!

必ずしも正しい
ありません。

Q では、土地利用はそれぞれどの地域が何に使われるのでしょうか？

A. 自然堤防上は畑、後背湿地は水田

水の得やすさ、水はけのことを配慮した結果!

ただし、現在の川沿いは自然堤防のばあい、真先にあふれに水がやってくる。
しかし、高台のため、水の引きは後背湿地よりも早い。